2020年11月14日

差枚	+45枚	RANK	B

実戦機種

A-SLOT北斗の拳 将、パチスロ ラブ嬢2、SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ　ほか

実戦レポート

この企画の実戦は現状だいたい月に6～7本ペースで、そのうち約半分が月の上旬にババっと連続するのだけど、この11月は見事なまでに4連敗を喫し、テンションだだ下がり。ただし、そのテンションが翌日以降の次の実戦にまで影響を与えてはダメなのだ。反省して立ち回りを改めることはあっても、弱気になって攻めっ気を失うようでは、それはそれでまた勝つためのチャンスを逃しかねない。そんな、とっくの昔に分かり切った当然の心構えを、また改めて胸に据えながらやってきたこの日、約50人の抽選で引いた番号は「37番」。なんか最近ずっと良い番号を引いていない気がするなー。と、嘆いてもしょうがないことは気にせず、現状すべきことを考える。考える。考えながら…入店。

例によって人気機種、高設定投入の定番機種は確保されているので、落ち着いて見てみよう。そういえば先月は「末尾にもうちょっと気を付けておけば早めに確保できたんじゃないか」と反省して終わったんだった。反省は大事だ。よし、じゃあ今日はいきなり末尾を意識した台選びをしてみようか？　入店前からあたりを付けていた、今日の該当数字になりそうな台番の中から空き台を探すと…ん、これから行こうか。「A-SLOT北斗の拳 将」。

打ち始めると、通常時の大きな設定推測要素の一つであるベル確率が、序盤から大好調。あとはボーナスが引ければしばらく打ち続ける材料は申し分ないのだが、ボーナスが、ボーナスが…いつ引けるんだ？　結局ベル確率は設定6以上をキープしたまま、最初の1万円が消失。こうなるとノーマルタイプあるあるの「朝だけ設定差ある小役ぶっちぎり現象」をどうしても想像せざるを得ない。とりあえず、400Gノーボーナスというさほど魅力のない履歴は出来上がったことだし、いったんこの台は手放して、他を探してみるか？
次に選んだのは、北斗・将と同じ末尾の「ラブ嬢2」。今さらながら打つ機会が増えた機種だが、しかしこちらも朝イチ3周期目までの動きはごくごく平凡で、魅力を感じる部分はなし。うーん、やっぱりこの末尾は違うのかなぁ？

ということで、あとはもう空き台の中から少しでも希望を見つけて掘っていくだけのお仕事。偽物語を少しだけ触り、バジリスクⅢでそこそこ投資させられるも連チャンに恵まれて一時的にプラスに転じ、最後は未発掘の北斗新伝説に一縷の望みをかけるも返り討ちにあい、ギリギリのプラスだけを守って終了。まぁ負けなかっただけ良しか…と思いたいけど、そこには残酷な現実が待っていた。北斗・将とラブ嬢2の末尾、結局当りだったんじゃねぇか！　ド下手か…。